



週間情報



No.0725

発行日 令和7年7月8日

発行所 全国消防長会

一般財団法人全国消防協会

担当 企画部企画課 03-4500-6622

両会の動き

◆ 令和6年度消防機器の改良及び開発並びに消防に関する論文の会長賞受賞作品と最優秀賞発表の動画を公式ホームページに公開

一般財団法人全国消防協会

一般財団法人全国消防協会では、令和7年6月27日（金）、令和6年度消防機器の改良及び開発並びに消防に関する論文（以下「機器論文」という。）の会長賞受賞20作品と、機器論文の最優秀賞受賞者による発表（令和7年5月30日（金）、広島市広島国際会議場で開催）の動画を、同協会公式ホームページに公開しました。

ぜひ、ご覧ください。

【同協会公式ホームページURL】

(<https://www.ffaj-shobo.or.jp/ronbun/ronbunr07.html>)

【問合せ先】

企画部企画課

担当：大曲、木原

電話：03-4500-6622

メール：kikakocho@fcj.gr.jp

消防本部の動き

行事

◆ 「警察消防相互協力等協定」を締結

西置賜行政組合消防本部（山形）

西置賜行政組合消防本部では、令和7年6月17日（火）、山形県警察本部長井警察署および小国警察署と「警察消防相互協力等協定」を締結しました。

この協定は、大規模災害時などにおける消防・警察機関の協力体制を明確化し、相互に積極的な情報共有と有機的な連携のもとで職員の安全を確保するとともに、迅速かつ効果的な救出・救助活動を展開し、地域住民の安全・安心の確保につなげることを目的として締結したものです。

この協定締結の背景には、昨年7月25日（木）に山形県新庄市本合海地内で発生した水害において、対応していた警察官2人が殉職した痛ましい事案があり、同警察本部が県内全域の消防本部と一斉に協力協定を締結する方針を打ち出されたことで、今回の協定締結に至りました。

今後も、災害対応力のさらなる向上と関係機関との連携強化に努めてまいります。



【締結式後の記念撮影】

訓練

◆ 伊勢市水防訓練において土砂災害救助訓練を実施

伊勢市消防本部（三重）

伊勢市消防本部では、令和7年6月15日（日）、伊勢市水防訓練の一環で、宮川河川敷において、伊勢市消防団（水防団）および三重県建設業協会伊勢支部と連携した土砂災害救助訓練を実施しました。

この訓練は、南海トラフ地震などの発生による甚大な被害が危惧されている本市において、各関係機関との連携強化を図り、迅速な対応、安全確保、効率的な救助活動につなげることを目的として実施したものです。

今後も、それぞれが持つ役割と強みを生かすため、連携訓練を行い、大規模災害に備えてまいります。



【訓練の様子】

◆ 機関員運転技術訓練を実施

さつま町消防本部（鹿児島）

さつま町消防本部では、令和7年6月17日（火）、18日（水）の2日間、宮之城自動車学校にご協力いただき、認定機関員および認定予定の機関員を対象とした、機関員運転技術訓練を実施しました。

この訓練は、運転技術と安全かつ適切な対応能力の向上を図ることで事故防止につなげることを目的として実施したものです。

当日は、同自動車学校教官によるご指導の下、自動車学校内のコースを走行し各車両の死角などを再確認したほか、現場を想定した方向転換、狭隘道路走行、S字コースバック走行などを繰り返し行い、車両感覚と運転技術の向上を図ることができました。

今後も安全運転を徹底し、職員全体で事故防止に努めてまいります。



【訓練の様子】

◆ 「長瀬地区官民合同水難救助訓練」を実施

秩父消防本部（埼玉）

秩父消防本部では、令和7年6月20日（金）、長瀬町、秩父県土整備事務所、埼玉県警察本部、船を運航する民間事業者と合同で、「長瀬地区官民合同水難救助訓練」を実施しました。

この訓練は、夏の観光シーズンを迎えるに当たり、水難事故が発生した際に、円滑に対応することを目的として実施したものです。

当日は、基本訓練として当消防本部職員の指導の下、水の事故で出血をした場合の応急処置を実施したほか、総合訓練として「ラフトボートでツアー中にけが人が発生した。」との想定で、119番通報から、止血処置、搬送、救急隊へ引き継ぐまでの連携手順を再確認しました。

今後も官民一体となり、河川の安全を守ってまいります。



【訓練の様子】

◆ 「CBRNEテロ災害対処千葉連携研修会」を実施

千葉市消防局（千葉）

千葉市消防局では、令和7年6月20日（金）、「CBRNEテロ災害対処千葉連携研修会」を実施しました。

この研修会は、量子科学技術研究開発機構放射線医学研究所、千葉県警察本部、当消防局が中心となって、毎年実施しているものです。

当日は、県内14消防本部が参加し、「ビル内、複数の貸会議室で男性が粉と液体を散布した」との想定で、前年度の実動訓練で出た課題を共有した後に、「令和5年度救助技術の高度化検討会」で示されたマニュアルに基づき活動しました。

研修会を通じて、県内消防本部が合同で1つの事案に対処するケースは限られているものの、活動方法について共有することができました。

今後も研修会を継続し、千葉県内の災害対処能力の向上につなげてまいります。



【訓練の様子】

◆ 「特別合同水難救助訓練」を実施

逗子市消防本部（神奈川）

逗子市消防本部では、令和7年6月22日（日）、葉山港と逗子湾において、横浜市消防局、横須賀市消防局、藤沢市消防局、鎌倉市消防本部、葉山町消防本部、横須賀海上保安部、地域の民間協力団体と合同で、「特別合同水難救助訓練」を実施しました。

この訓練は、夏季に増加する水難事故への対応力の向上と関係機関との連携強化を図ることを目的として実施したものです。

当日は、実際の水難事故を想定し、水上バイク、消防艇、巡視艇などを活用しながら、要救助者の捜索・救出・放水を関係機関と連携して行い、海上と陸上における一連の救助活動を再確認することができました。

また、訓練後に講評を受けた後、訓練の振り返りを行い、今後の災害対応に向けた改善点や課題を共有することができました。

今後も、地域の安全・安心の確保に向け、関係機関との連携を一層強化してまいります。



【訓練の様子】

研 修

◆ 北海道消防学校派遣経験職員によるフィードバック研修を実施

西胆振行政事務組合消防本部（北海道）

西胆振行政事務組合消防本部では、令和7年6月11日（水）、12日（木）の2日間、全職員を対象とした、北海道消防学校派遣経験職員によるフィードバック研修を実施しました。

当日は、「消防活動時における安全管理」をテーマとして、さまざまな状況における安全管理について、実災害をベースに座学を実施しました。

また、「人材育成」をテーマとして、「部下を成長させることは、自分自身の成長にもつながる」をスローガンに、同消防学校で学んだ知識と経験を生かした内容で研修を行い、人材育成に大切な事を多く学ぶことができ、大変有意義な研修となりました。

今後も、同研修で得た知識を現場活動時、訓練時の安全管理、人材育成に役立てるとともに、消防力および組織力の向上に努めてまいります。



【研修の様子】

◆ 火災原因調査実務実習を実施

郡山地方広域消防組合消防本部（福島）

郡山地方広域消防組合消防本部では、令和7年6月19日（木）、火災原因調査実務実習を実施しました。

この実習は、火災調査技術の向上を図ることを目的として実施したものです。

当日は、居室の一部を再現した模擬家屋から火災を発生させ、火元責任者への聴取から発掘、説明までの現場見分の一連の流れを実施し、火災原因調査における調査手順を確認できたほか、出火箇所および原因の判定など、火災調査に必要な技術と知識を共有することができました。

今後も、今回の実習を生かしながら調査精度の向上を図るとともに、根拠に基づく消防行政の推進に努めてまいります。



【実習の様子】

◆ 職員能力強化研修を実施

鳥取県西部広域行政管理組合消防局（鳥取）

鳥取県西部広域行政管理組合消防局では、令和7年6月20日（金）、職員能力強化研修を実施しました。

この研修は、近年、頻発化している気象災害に備えるため、消防職員として対処するための情報収集の方法や気象に関する基礎知識を修得することを目的として実施したものです。

当日は、鳥取地方気象台次長の中江祥浩氏を講師としてお招きし、「消防職員が身につけておくべき気象知識」をテーマとして、気象災害のメカニズム、気象情報の利用方法、鳥取県の気候などについてご講演いただきました。

今後も、複雑多様化する災害に対処するため、各種研修訓練を継続し、災害対応能力の向上に努めてまいります。



【研修の様子】

そ の 他

◆ 消防協力団体に感謝状を贈呈

柏崎市消防本部（新潟）

柏崎市消防本部では、令和7年6月24日（火）、消防協力団体に対して、消防長から感謝状を贈呈しました。

本事案は、同年3月24日（月）、管内のゴルフ場で発生した救急事案において、ゴルフプレー中に心肺停止となった男性に対して、同ゴルフ場のスタッフが連携し、119番通報、胸骨圧迫、AEDを活用した除細動を迅速かつ的確に実施し、救急隊に引き継いだものです。

男性は、救急隊到着時には心拍が再開しており、スタッフの途切れることのない救命の連鎖により、医療機関での入院加療を経て、無事に社会復帰しました。



【感謝状贈呈後の記念撮影】

◆ 危険物講習会を実施

東京消防庁（東京）

東京消防庁丸の内消防署では、令和7年6月11日（水）、12日（木）の2日間、危険物安全週間の一環として、危険物施設職員などを対象とした、危険物講習会を実施しました。

当日は、集合形式で計38事業所47人が参加し、管内特性に特化した一般取扱所や地下タンク貯蔵所などの危険物施設の事故事例と安全対策について講演した後、エアゾール缶噴射剤の燃焼実験、エタノールの燃焼実験、電気火災実験などを行い、実際に身近な危険物から発生する煙や炎を確認しました。

参加者からは、「改めて危険物や電気火災の危険性を知ることができ、有意義な講習会でした。」との声が寄せられました。



【講習会の様子】

◆ 消防職員採用ポスターを作成

加古川市消防本部（兵庫）

加古川市消防本部では、令和7年6月20日（金）、消防職員採用ポスターを作成しました。

このポスターは、「加古川市消防本部の中身（？）お見せします！」をテーマとして、笑顔で生き生きと働く当消防本部職員の姿を受験生に知っていただくとともに、自分がチームの一員として、「この仲間と一緒に働くんだ！」というイメージを持っていただきたいという思いを込めて作成したものです。

作成したポスターは、職員の写真を使用して当消防本部のエンブレムを作る「モザイクアート」となっており、初めて挑戦する中、大変満足いく出来栄となりました。

今後は、ポスターを見た受験生が「自分もこのピースの1つになって一緒に働きたい。」、そんな気持ちになっていただくことを期待しています。



【モザイクアートのポスター】

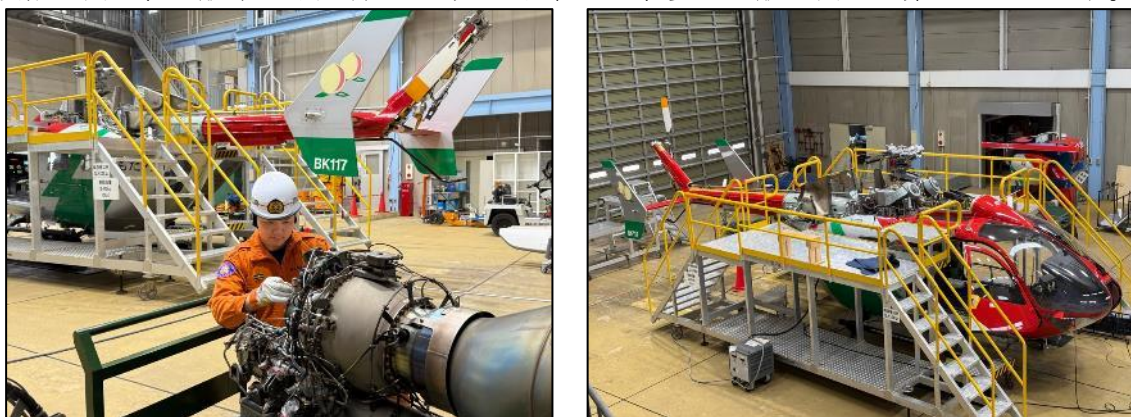
◆ 岡山市消防局航空隊の耐空証明検査に係る整備を実施

岡山市消防局（岡山）

岡山市消防局では、令和7年4月17日（木）から6月20日（金）までの間、岡南飛行場内の当消防局航空隊格納庫において、耐空証明検査に係る整備を実施しました。

この整備は、外部委託ではなく、自隊の整備士を中心に検査前の整備から、航空局検査官による検査受験までを一貫して行っており、昨年度に引き続き2回目の実施となります。

自隊で実施する整備を通じて、整備期間の短縮と費用の削減を図るとともに、若手整備士の知識・技術の向上、運航中の不具合への対応力強化など、安全運航の向上に繋がっています。



【整備の様子】

消防庁通知等

◆ 都道府県及び市区町村の庁舎に係る防火安全対策の徹底等について

(消防予第266号、令和7年6月25日)

消防庁予防課長から各都道府県消防防災主管部長、東京消防庁・各指定都市消防長あてに通知が発出されましたので、お知らせします。

去る令和7年5月6日夜に埼玉県白岡市庁舎において火災が発生し、焼損被害により、当該庁舎が使用できなくなるなどの事態が生じました。本火災の出火原因については、管轄消防本部において現在調査中ですが、電気系統のショートの可能性が高いと考えられているところです。

—以下省略—

○ 全文は、消防庁ホームページ

(https://www.fdma.go.jp/laws/tutatsu/items/250625_yobou_266.pdf) に掲載されています。

消防庁予防課 企画調整・制度・防災管理係
奥田違反処理対策官、辻係長、安田総務事務官、
中西総務事務官
電 話：03-5253-7523

◆ 劇場等における車椅子使用者客席の同伴者席の固定に係る取扱いについて（通知）

(消防予第248号、令和7年6月26日)

消防庁予防課長から各都道府県消防防災主管部長、東京消防庁・各指定都市消防長あてに通知が発出されましたので、お知らせします。

劇場等の客席については、火災予防条例（例）（昭和36年自消甲予発第73号。以下「火災予防条例（例）」という。）第35条及び第36条を参考として、各地域の火災予防条例において基準が定められているところです。

今般、高齢者、障害者等の移動等の円滑化の促進に関する法律施行令の一部を改正する政令（令和6年政令第221号）により、劇場等における車椅子使用者客席の設置数に係る基準が見直されるとともに、「高齢者、障害者等の円滑な移動等に配慮した建築設計標準」（令和7年5月30日国住参建第996号）により、同伴者席を車椅子使用者用客席の横に設けることや、地方公共団体の火災予防条例等に則り可動椅子の設置が可能な場合には、同伴者用の客席は固定席ではなくスペースや可動椅子とすること等が標準的な設計内容として位置づけられたところです。

—以下省略—

○ 全文は、消防庁ホームページ

(https://www.fdma.go.jp/laws/tutatsu/items/250626_yobou_248.pdf) に掲載されています。

消防庁予防課予防係
担当：谷川^{たにがわ}、中臺^{なかだい}
TEL：03-5253-7523
Email：yobouka-y@ml.soumu.go.jp

◆ 製造所又は一般取扱所において電気機械器具等を使用する場合の運用について
(消防危第140号、令和7年6月30日)

消防庁危険物保安室長から各都道府県消防防災主管部長、東京消防庁・各指定都市消防長あてに通知が発出されましたので、お知らせします。

電気機械器具等が火花を発する機械器具等に該当する場合は、危険物の規制に関する政令（昭和34年政令第306号。以下「政令」という。）第24条第13号に規定する「可燃性の液体、可燃性の蒸気若しくは可燃性のガスがもれ、若しくは滞留するおそれのある場所又は可燃性の微粉が著しく浮遊するおそれのある場所」では使用できないこととされています。

—以下省略—

○ 全文は、消防庁ホームページ

(<https://www.fdma.go.jp/laws/tutatsu/items/62801b100d0b12b7505f31e201338c118aa0288c.pdf>) に掲載されています。

(問い合わせ先)

消防庁危険物保安室

担当：三宅、小澤、宇野、中山

TEL：03-5253-7524

E-mail：fdma.hoanshitsu@soumu.go.jp

報道発表

◆ 令和7年5月の熱中症による救急搬送状況

(令和7年6月24日、消防庁)

熱中症による救急搬送人員について、令和7年5月の確定値を取りまとめましたので、その概要を公表します。

—以下省略—

○ 全文は、消防庁ホームページ

(https://www.fdma.go.jp/pressrelease/houdou/items/kyuuki_20250624.pdf) に掲載されています。

【連絡先】 消防庁 救急企画室 救急連携係

担 当：竹田課長補佐、松田係長、三宅事務官

T E L：03-5253-7529

E-mail：kyukyukikaku-kyukyurenkei_atmark_soumu.go.jp

※スパムメール対策のため、「@」を「_atmark_」と表示しております。
送信の際には、「@」に変更してください。

機関誌「ほのお」記事募集

一般財団法人全国消防協会では、機関誌「ほのお」に関して、各消防本部より次の投稿記事を募集しています。

①トップ・セカンド記事

②知識・技術の伝承—教えて！消防技術—

③女性職員の活躍推進

※①・②・③の執筆要領等の詳細は、週間情報（No.0716）1ページ、機関誌「ほのお」2025年4号（4/25発刊）29ページを参照願います。

TEL：03-4500-6622 機関誌「ほのお」担当：企画課 中西

原稿データは、kikakoho@fcj.gr.jpに送信願います。

④消防ワイド

【特徴】

- ・写真中心のビジュアルな広報
- ・紙媒体により記録性に優れる広報

【留意事項】

- ・文章は、Wordで100文字程度で作成をお願いします。
- ・写真は、Wordに貼り付けず、JPEG画像データを1枚送付してください。
- ・消防ワイド、週間情報の両方に投稿された場合、どちらか一方のみの掲載となります。

TEL：03-4500-6622 機関誌「ほのお」（消防ワイド）担当：企画課 児嶋

原稿データは、honoo@ffaj-shobo.or.jpに送信願います。

ご投稿をお待ちしております。

※添付ファイルの容量が5MBを超える場合は、分割して送信願います。

週間情報への投稿は企画課へ！

週間情報では、各消防本部の身近な情報を掲載していますので情報をお寄せください。

【特徴】

- ・原則毎週刊行される、速報性のある広報
- ・文章中心の情報量が多い広報

【留意事項】

- ・配信日（原則火曜日）から前2週間以内のイベント、訓練等を中心に掲載しています。
- ・文章は、Wordで200～400文字程度で作成をお願いします。
- ・写真は、1～2枚をWordに貼り付けて送付してください。
（貼り付けできない場合は、JPEG画像データを送付してください。）
- ・週間情報、消防ワイドの両方に投稿された場合、どちらか一方のみの掲載となります。
- ・掲載が決定した場合のみ、担当者からメールを返信させていただきます。

TEL：03-4500-6622「週間情報」担当：企画課 木原

原稿データは、weekly@fcj.gr.jpに送信願います。